

実践事例

1 題材名

第3学年 附属中グッズ化プロジェクト

【A表現（2）イ，（3）イ】【B鑑賞（1）ア】

〔共通事項〕 ア,イ

2 実践内容

(1) 題材設定の趣旨

私たちの日常生活の中には様々な人工物があふれている。その人工物のほとんどは、誰かがデザインした物であり、私たちはそのデザインされた物から機能的なよさのみならず、形や色などの美しさも感じ取り、自分の生活に取り入れ豊かにしている。すなわち、美術の創造活動の中でも、デザインに表現する活動とは、目的や条件を基に相手の立場に立って、美しい、使いやすいといった感性的な価値や美的感覚と知との調和を考えることができる活動であるといえる。

本題材は附属中学校をテーマに、より附属中学校が感じられるオリジナルのグッズを、表現方法を工夫して制作するものである。シルクスクリーンによる技法を用いて無地のトートバッグやTシャツ、ハンカチにオリジナルのプリントを施していく。1グループ4人のデザインチームを結成し、コンセプトの設定からグッズのデザイン案の検討、版の制作、そして印刷までを行う題材である。題材名にもある通り、「附属中のグッズ化」であるので、グッズを通して多くの人々に附属中学校とはどのような学校であるのかを伝えることを目的に、チームごとに「附属中は〇〇な学校」といった明確な考え（コンセプト）をもった上で、それに応じた絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素などを工夫して相手に伝えたい事を伝えられるように表現していくものである。

(2) 題材構成

次	主な学習活動	配時
1	○作品（商品）の鑑賞をする ・市販されている商品の鑑賞を通して、描かれているものを根拠によさや美しさを捉える	1

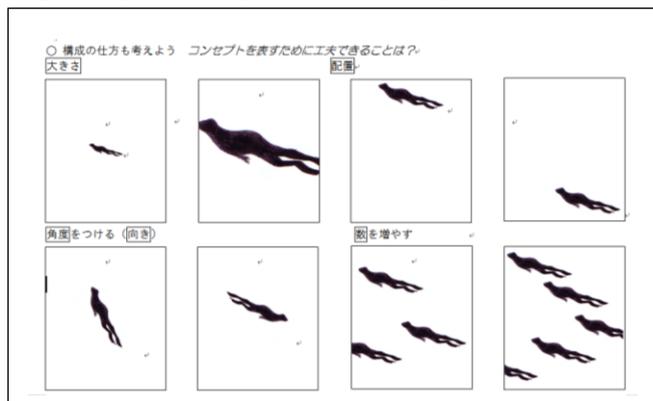
2	○個人でグッズのコンセプトを考える ・シンキングツールを利用して伝えたい附属中の姿について考える。 ○個人のコンセプトを基にチームを編成する。 ○チームのグッズのコンセプトをまとめる ・個人のコンセプトからチームのコンセプトにまとめていく ○チームのコンセプトから附属中グッズのデザインを考える ・コンセプト応じた絵や文字、その形や大きさ、配置、色彩、構成美の要素などを工夫してデザイン案を考える	3
3	○ポスターセッション ・ポスターセッションを通して、伝えたいことを効果的に表すために必要な工夫について考える ○ポスターセッションを受けて制作するグッズのデザインの確定やデザインの修正をする	3
4	○下絵を基にシルクスクリーンの版を制作する ○版をグッズに印刷する ・材料や表現方法の特性を生かし、順序を考えて制作する	5
5	○各チームのグッズの鑑賞をする ・各チームの作品を鑑賞し、美しく、分かりやすい表現や工夫を感じ取る。	1

3 指導上の工夫

(1) 生徒が自分のものとして捉えることのできる題材の設定

題材の設定においては、その題材を通して、生徒にどのような力を身に付けさせるのか明確にするとともに、それを全ての生徒が主体的に実現できるように学習内容を考えていくことが必要である。主体的に取り組んでいくためには、生徒一人一人が題材を自分のものとして捉えることができることが大切なポイントである。生徒や学校、地域などの実態や

▼②の段階で示した資料（一部）—構成について—



表現活動において、生徒が伝えたい附属中学校像(コンセプト)を多くの人に伝えるための形や色彩、構成などの効果を考えるためには、形や色彩などがもつ性質や、それらがもたらす感情を理解し、表現のイメージを捉えることが必要である。そこでデザインの検討では[共通事項]の視点から発想や構想を促すために、グッズのデザインの要素として資料にまとめ、生徒に提示し、それをヒントにデザイン案を考えさせることとした。また、市販されている商品とそこに用いられている構成美の要素が分かる資料も用意し、具体例として示した。

▼③の段階（ポスターセッション）の様子



③の段階は、ポスターセッションを通して、それぞれのデザインチームのコンセプトやそのコンセプトに一致したデザインとなるよう考えを明確にさせるとともに、他のチームの生徒の言葉から自分のチームにはなかった新たな視点や価値に気付かせ、生徒たちの見方や考え方、感じ方を広げていくことが目的である。ポスターの作成では、コンセプトを表すためどのような効果をねらい、グッズのデザインの各要素でどのような工夫をするのか書かせた。その際、効果の語彙例

を提示し、それをヒントに書かせることとした。また、ポスターセッションでは、各チームのデザイン案から何を感じたか、その理由は何かを考え付箋に書かせ、相手チームに渡すこととした。ポスターセッション後は渡された付箋を基にデザイン案を練り合うことで、よりコンセプトとデザインの整合の取れたものになると考えた。

▼③の段階で示した効果の語彙例

効果の言葉（例）

穏やかな 柔らかい おおらかな やさしい 堂々とした 誠実な
 ひたむきな パワフルな
 さわやかな 親しみやすい
 のんびりとした 熱心な
 洗練された シックな
 変化がある インパクトのある
 整合性のある 統一感のある
 分かりやすい

など

4 成果と課題

- ① 前述の通り、本題材はグッズの制作を通して、実生活にある美術の存在の顕在化という側面をもっていった。生活に身近な商品と美術的要素を関連付けて授業で取り上げたことから、授業の最後に生徒に書かせた感想には、「世の中にあるいろいろな商品の中にも美術的な要素があることが分かった」というものや、「商品にも思い(コンセプト)が込められていて、それを表すためにデザイナーが工夫している」などといったものがあつた。学校美術にとどまらず、社会の中の美術についても意識させたことは、生涯にわたり美術を愛好する心情にもつながっていくと考える。しかし、この題材で取り上げた生活に身近な商品というのは指導者の経験や知識に偏ってしまう面もある。指導者は常に見聞を広げていく必要があるだろう。
- ② 本実践の最後に、この授業を通して学んだこと考えたことなど生徒に振り返りを書かせた。その中には次のような思いをもっている生徒が見られた。

生徒の振り返りから

- ・自分にはない考えをもっている他の人の話を聞くことで、「あ、そんな考えもあったか」と発見がありました。
- ・最初に個人のアイデアを出したときは、微妙なものが多かったが、それぞれの良いところを出して、そのよいところをよりよくするためにはどんな工夫をすべきか班で話し合うことが、より良いデザインにするために必要な手順だと思った。
- ・班内でデザイン案を見せ合ったとき、一人一人が全然違うものを書いていて、指摘のし合いがすごく盛り上がった。そこで自分のデザイン案の悪いところを見つけることができたり、他の人からよい意見を取り入れたりできた。

思考の流れに沿った指導の手立てとして、個人からチーム、そして学級全体へと発想や構想する段階の学習形態を徐々に広げていったことは、生徒自身の見方や考え方、感じ方をもたせ、さらに、他の生徒の見方や考え方、感じ方に触れることで、新たな視点や価値に気付かせ、生徒たちの見方や考え方、感じ方を広げていくことにつながっていったと思われる。特に個人及びチームでのコンセプトの設定でシンキングツールを用いて考えたことは、それぞれの生徒がもつ附属中学校のイメージを言葉に置き換えてより深く思考し、明確にするという思考の基礎として働いていたと考える。また、各チームのコンセプトとデザイン案を練り合う場としてポスターセッションを設定したことは、自由にチームのデザイン案を見に行ったり、比較的気軽に相手チームに質問をしたりできるなど、積極的な言語活動の場を展開できていたと感じる。このように学習形態や学習の取りませ方などの工夫によって、生徒がより深く思考することにつながった。

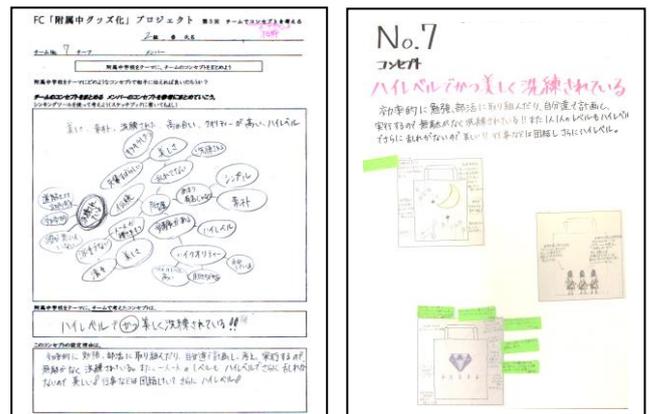
一方、課題としては、いかにして個人の考えを紡ぎ合わせ、チームの考えを作り上げていくかという難しさがある。個人から複数での学習活動になっていくと、どうしても互いの見方や考え方、感じ方の違いが生まれてくるからである。

本題材は多くの人々に附属中学校の姿を伝えるこ

とが目的である。そこには、伝えたい事をチームで一致させること、その伝えたい事を相手に伝わるように表現することが解決すべき事柄となってくる。それらを解決していくためにはやはり〔共通事項〕の視点を学習活動に取り入れ、それを基に生徒に考えさせていくことが大切なことであろう。本実践でも〔共通事項〕を視点にグッズのデザインの要素やそれらの工夫から感じられる効果など資料として提示してきたが、整理して示すことができていたかは疑問である。しかし、思考・判断・表現していく際に拠り所となるものが〔共通事項〕である。今後、改善を図っていきたい。

また、ポスターセッションでは、自由に質疑応答できる場である反面、指導者が全体を把握するのは難しい。言語活動による思考の高まりをどう見取り(評価)、生徒に返していくかも今後の課題としていきたい。

▼チームのコンセプト設定～ポスター～完成までの一例



<参考・引用文献>

文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術編 (平成 20 年 9 月)」日本文
教出版、2008 年
東良雅人「育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にした美術、工芸
における授業づくり」中等教育資料 (平成 26 年 5 月～) 学事出版株式会社
黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕著「シンキングツール～考えることを教えた
い～」NPO 法人学習創造フォーラム、2012 年